

No 15

1972.  
9. 8

# 岐阜の博物館

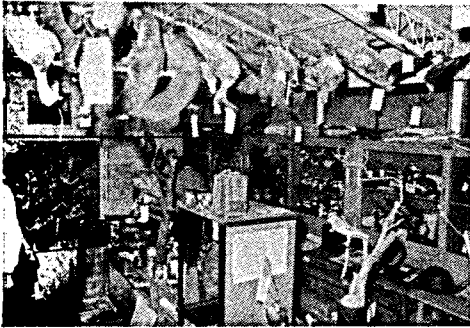
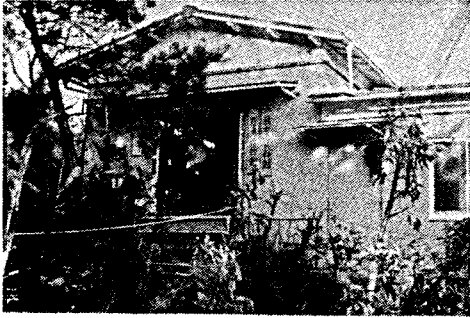
編集兼発行  
岐阜市岩戸花月町  
2の1  
濃飛甲冑研究所内  
岐阜県博物館協会  
責任者 吉田幸平  
振替 名屋 28716

## 館・園 紹介 No 13

### 池村教育資料館

〒501-32 関市下有知町6066の8

TEL <05752> 2-4490



(上) 教育資料館正面入口。

(下) ところ狭しと展示されている動物剥製標本。池村氏ひとりの収集品である。

(右) 生物ことに動物の話題になると、目の輝きが一段とすどくなり、常にこどものために……をモットーに、いつまでも若々しい池村氏。

「ウサギ追いしかの山、こぶな釣りしかの川……もくそもない。メダカもタニシも、何もかももうなってしまう」云々と、せきを切ったようにつきつきと飛び出してくることばの端々に、長年にわたって、山の中で、実物の生物を相手にして身につけられた知識と、そこから生まれてきた自然を守る気概がうかがわれる館長池村兼武氏であった。

退職金のほとんどをつぎこまれたのであろう。関市下有知、八幡神社の境内を借りて建てられた教育資料館は、ささやかな建築物とはいえ、一步足を踏み入ると、野鳥類の剥製標本、昆虫標本、それに植物標本まで加わって、ところ狭しと展示されている。私財を投じて、全く独力で資料館づくりであるだけに、まだまだ整理の途中でもあるし、博物館学的にみれば、不満な点も多い。二百点に及ぶ野鳥の剥製標本も、その大部分が天井からつりさげられており、逆立ちしているのは、何とも残念でならない。もっともっと、広い展示室で十分なスペースをかけ、それぞれの野鳥の生活環境を再現しつつ、生態的な展示を行ったり、系統的分類展示を行ったりできたら、どんなにすばらしい資料館となることだろうか。今ある資料の価値を、より伸展させ、教育効果を高めるためにも、「自由にお使いください」と、ポンと寄附金を出してくれるような人は、どこかに居ないものだろうか。「初めは道楽で寄せ集め出したんだが、実物を手にして、子どもたちと話し合うことは、じつに楽しい教

育である。へたにくどくど口で説明しているより、細かくよく見ろ。……と実物を見せることが、とにかく何事も徹底する根本……」と、長かった山国での教員生活を思い出される氏こそは、ほんとうに子どもを大切にされ、子どものために、子どもとともに歩まれた教師であった。

専門的に生物学を勉強されたわけでもない。肌で自然と接し、今のように恵まれた図鑑類も手に入らない時代に、わかりにくい図鑑と首つきりの独学、そして、剝製標本の作り方も、あくまでも自分の体験から、独特の我流を生み出されたのであった。岐阜市内まで、山の中から50円で往復できる時代に、ヤマドリを300円で購入して標本にするなど、その集収意欲は、まともな日常生活をも忘れさせるほどであった。その変人振りは、いつしか村の人々に、「この小鳥、山で死んでいましたよ」「先生、この植物は葉っぱの真中に花咲かせていますよ」などと、見るもの、珍しいものを、どんどん持参させるまでになったのだった。

「記録映画、たとえば白い山脈にヤマネガ登場すると、あゝ、これは、おれのもっているやつやなど感激したのも、もう遠い思い出すわ……」と語られる氏の面影には、生活は苦しくとも、村の生物学者としての幸せな過去のみがのぞかれ、むくわれることは少なくとも、教育一筋に生きてこられた男の満足感が漂っていた。教員を止めるに当り、自分の集めた資料を何とか生かして、「郷土のためになろう。子どもたちに観察力をつけてやろう。ひ弱な現代っ子の根気づくり役に役立つよう」と決意された氏は、この資料館を無料解放され、二度・三度と遊びに来る近くの子どもたちに、いつもニコニコと笑顔でやさしく、しかも、自然の知識については、じつに厳しく接しておられるのである。私益を忘れて、郷土の子どもたちのために役立とうとされているその心の底には、貧乏に育ち、代用教員の身から振るい立って今日を築かれた、氏の人生哲学が波打っているにちがいない。「この裏山ひとつぐらい借りきって、樹木に名札をつけたり、禁猟区として小鳥の楽園にし、子どもたちの自然の遊び場にしたいネ」……と、氏の夢は大きくふくらんでいく。

わたしたち人類にとって、自然とは何なのか？ 自然の中での人類の位置を問い直してみなくてはならない今日、ひとりでも多くの人が、この人——池村兼武氏との対話を通じて、ほんものの自然観・人生観について、何かを学びとってほしいものである。どんどん出かけて、気軽に氏との雑談に華をさかせてもらいたいものです。

(写真・文、小野木学芸員)

## 岐阜県博物館協会役員一覧

過日行なわれました、本協会総会において、  
下記のように、役員が選出承認されました。

会 長 上松 陽助(岐阜市立博物館施設責任者)  
岐阜市長

副会長 平田 吉郎(高山市立博物館施設責任者)  
高山市助役

郷 浩(岐阜城館長)

理事長 吉田 幸平(濃飛甲冑研究所長・学芸員)

理 事 白木 孝一(白木菊花石館長)

” 田中 敏夫(岐阜市立児童科学館業務係長)

” 青木 允夫(内藤記念くすり資料館長)

” 名和 秀雄(名和昆虫博物館長)

” 日比 武(大垣城)

” 古川 庄作(岐阜県陶磁器陳列館長)

” 武藤 隆一(奥美濃郷土館長)

理 事 川上 克彦(下呂合掌村責任者)  
商工観光課長

” 長倉 三郎(高山市立民俗館)  
名誉館長

” 藤田松太郎(円空顕彰会理事長)

” 石川 良宣(文化財保護協会常  
任理事)

” 松田 充(東海社会教育評議  
会議長)

顧 問 江口 三五(岐阜県文化団体会  
議長)

” 広瀬 鎮(J・M・C附属博物  
館学芸部長)

事務局長 吉田 幸平

局員 松本 秀夫(文化財保護協会)

会計 上村 修(美濃民俗文化の会)

「岐阜の博物館」編集責任者  
小野木三郎(稲中教諭・学芸員)

# 岐阜県博物館に懸ける夢

国立科学博物館事業部長 鶴田 総一郎

県博の建築設計ができ上がっていると伺った時には、せっかくのお誘いだが断わろうかと思った。しかし関市山田の現地を、佐藤所長さん他の親切な御案内で、この足で踏み締めた時には、やはり伺ってよかったなとつくづく感じた。

というのも、まず最大の基本条件としての立地、環境（来館者の将来の動員計画を含めて）が、98haの広さとともに、十分期待できる。上に、百年記念公園事業自体にまだ十分調整できる可能性があることである。それに博物館の内部設計にもまだ調整できる余地があるということだからなおさらである。

そこで、次のような私なりの夢と期待を御参考までに申し述べてみたくなった。

それは、百年記念公園の実質を、人間性回復のための総合野外博物館とすることに尽きる。

つまり園路は自然観察路(Nature Trails)に。植物園は潜在植生が

顕在する可能性を実現する野生植物区で、これに見分け易く、自から探求しやすくてがかりとしくみが工夫され、なにげなく配置され、行き届いた教育的環境であるようになっていこと。動物園は、家畜・家禽や、餌付けされて野生を失った「もと野生動物」ではなく、

この地域の生態環境下に最もふさわしい種類と数との組み合わせの野生動物区で、植物園と同様な配慮のあるものを。幹線道路（管理・非常用）の他は、公園や建設用語でいう道路の無い自然のみち（例えばけものみちのように）を。博物館の主屋は谷間に潜んで、そのつもりでなければ周囲の緑に溶け込んで存在すら感じられないものにするなどである。自然公園という名の不自然公園ではだめで、本来の博物館資料（現象も含めて）である本物の自然が主体的にならねばならないからである。

さて、縦割行政の中での通常の方式では、以上のことはまず実行困難であろう。同時に行政

相互で十分に話し合い、内容調整をしあって、メンツにこだわらずに総合的に計画をまとめてゆけば、逆に結構実質的にはお互いに納得の行く上述の内容になるはずでもある。



この可能性を概論ではなく、私は関係者の言動から肌身に事実と感じた。だからもしこの印象が正しかったとすれば、今頃は、既に基本的な横の連携は着々進んでおられようし、おそらく、皆様がそれぞれの専門分野毎に、よりよい県博をと、懸命に企画・推進されながら、なおかつ何かもう一つスカッと割り切れたイメージに欠けるものか感じておられたかもしれないものが一掃されているのではないだろうかと思う。

だから、私の夢には、大自然植物園の中にわざわざ人工植物園を造る代りに、環境に応じた野生植物区が浮び、ハナノキ・エトツバダコ・シデコブシ等の特徴種は幹線道路の自然並木として生き、同時に背後の自然に無理なく移行していつているし、止むを得ずつくる切

通しやトンネルは、土壌・地層・土壤生物群のすばらしい野外展示となっている。トンネル展示方式（アリゾナ砂漠博物館で創設され有名）が、地中に棲む動物や樹木の根の生態展示に採用されているかもしれない。

野鳥類も、本来のPopulation以上に、人間の主観的発想からの無理矢理給飼による野生失調の恐れも無くなり、餌付けの度が過ぎてだらしの無い姿を曝している方ほうの猿山グループの轍を踏むことは無いであろう。

さらに、総合博物館が、単に資料の分野が歴史と自然に亘っているということでは無く、また、建物の中の資料などという個々（P.4へ）



（関市山田の現地を視察中の鶴田 総一郎氏）  
右から二人目

# 昭和初年の岐阜県博物館界

宮崎 惇

現在の岐阜県下には、歴史・民俗・美術工芸・自然関係合わせて90余の館園洞があり、昭和初年(10年まで)の5館園からみると、この40年間、特に戦後のいちじるしい岐阜県文化のふくらみをみることができる。

岐阜県出身の、わが国博物館界育ての親、棚橋源太郎先生(1869~1961)は、昭和5年に「眼に訴える教育機関」を、同7年に「郷土博物館」を出版し、つとに博物館の重要性を強調されている。

**A.** 岐阜県教育会(明治15年創設)は、大正15年に教育会館本館と図書館を現在も建物の残る岐阜市美江寺に新築し、昭和4年には更に別館を改築して郷土博物館(木造2階建・延54坪)とし、県下の動植物・鉱物・地理歴史産業等の資料を展示した(入場無料)。そして当時の郷土教育の普及に役立てようとした。

昭和6年以降15年までは「常置教育的観覧施設」の部に「岐阜県教育会付属郷土館」として記録されている。教育会館は戦火にあい、展示品もなくなった。

**B.** 大正8年(1919)開館の名和昆虫博物館は当時としては天下に名をなす博物館活動を展開していた。所在地は現在の位置で、本館2階建て、洋館風48坪。別館白蟻館は平屋建て6坪余。入場無料。

展示品は国定教科書中の昆虫一般、分類標本、標本製作法、特種標本、カイコの発育、重要益虫害虫、生態標本。養蜂器具、害虫駆除用具ならびに薬剤等であった。絵葉書販売。

**C.** 岐阜県師範学校(現岐阜大学教育学部)で

は、当時の教育界の主流をなしていた郷土教育の振興のために、岐阜師範学校郷土室を設けていた。郷土に関係する歴史・地理・博物その他の参考資料などを集め展示していたもので、昭和16年までは本館階上中央に郷土室として保存した。展示品の一部は大学の各教室へ受けつがれている。

**D.** 昭和3年御大典記念として開園した当時の岐阜高等農林学校付設那加植物園(現岐阜大学農学部附属植物園)は、活動の最も盛んな時期であった。

**E.** 現在岐阜県の産業について、まとめて展示しているところはないが、当時、岐阜県物産販売斡旋所が、岐阜市司町の県会議事堂階下であって、県の産業の発達に寄与していた。

昭和10年、岐阜市神田町9丁目東側に4階建て最新式洋館の岐阜商工奨励館を建設し、その2階を物産販売斡旋所とした。現在の商工会議所の前身にあたる。

本稿を草するにあたり県立図書館・国立図書館の協力を得た。ここに深謝の意を表します。

## 〔参考資料〕

1. 岐阜県教育要覧(昭和5年)
2. 岐阜県統計書第3巻教育の部(昭和6年)
3. 岐阜県の商工業(昭和5年)
4. 日本博物館協会編・全国博物館案内(昭和7年)
5. 郷土教育年鑑(昭和8年)
6. 岐阜商工五十年史(昭和15年)
7. 岐阜商工会議所七十年史(昭和38年)
8. 岐阜県大地理(昭和10年)
9. 岐阜県百科事典(昭和43年)

(岐阜県教育委員会・博物館開設準備室)

(※P3より)の狭いものでもなく、基本的に、岐阜という中域地域社会の自然と歴史とが渾然一体となって展開してきた地域全体の、生きた流れの実態を総合的には握するという意味と内容の総合であり、これをまず、主体者として地域住民のために、調査研究の上、整理し展示して、よりよい明日の糧として提供し、博物館が地域性ととも生きていく姿がまざまざと浮かぶのである。

## 岐阜県博物館協会会員表彰について

第10回岐博協総会にて、如何なる博物館類似施設または相当施設に、勤続10年以上の方は、事務員・宿直員・炊婦・清掃夫の区別なく表彰することになりましたので、昭和48年3月31日現在で申し出て下さい。また、この外、当協会のため特別に功勞のありました方、財政のご支援を賜わった方も、理事会で表彰規定を作って併称致したいと考えています。連絡下さい。

## ひとりひとりが、文化財破壊防止の戦士となろう

岐阜城館長 郷 浩

本年3月27日、創立以来本会副会長として活躍下さった名和正男さんが、突然逝去されて、まことに残念であります。心からおくやみ申しあげます。

今回はからずも名和さんの後任として、副会長の重責を果すことになりましたが、生来の毒舌家でありますから、皆様のご要望に酬いることはできないかも知れませんが、幸にも、吉田幸平さん、宮崎惇さん、小野木三郎さんなどの名幹部が揃っているので、私の足りないところは十分に補っていただけるものと安心していきます。

現在岐阜県内の博物館(資料館等)の数は、90を降らないといわれていますが、弱体館が多く、完全に独立経営出来る館は、10指前後でありまして、大半はその機能を十分に果していません。この県の特徴は、山間部の集落に残る民俗資料を集中管理しているといった資料館が多く、また個人の収集品を展示しているといった小規模経営館が目立ちますが、これらはそれぞれ素朴なローカルな特色をもっています。これを通して、祖先の生活のよすを偲ぶことができるのは、心暖まる思いがいたします。

これら多くの弱少資料館を育成していかなければならないということが、本県博物館界の今日の課題であります。現今の如く、超スピード時代におきましては、過去の社会的文化的形態は、

急激に崩壊しつつあります。この時にこそ、日本の古い伝統・古い文化財・古い心を必死に保つて保存せねばならないと思います。これはもとより、一人の努力では達せられないと思われまますので、官民一致して協力せねばなりません。幸にして、岐阜県知事さんは、われわれの事業の重要性を認識されて、本年度は20万円の補助金を下付されました。

かゝる重要な時期でありますから、われわれ会員は、他に率先して文化財の保護保全に努力するとともに、広く県民に呼びかけて、文化財保護思想の普及に活躍せねばならないと思います。われわれの一人一人は、文化財破壊防止の戦士となり、古い文化財を後世に伝えねばならないという重大な決意を持たねばならないと思います。一概に文化財といっても広範囲でありまして、踊り、民謡、物語(伝説)神事、芸能などの無形文化財の外、木像、石像、民芸品、建造物、史蹟、窯跡、古墳などの有形文化財にも、心をくばらねばなりません。

これらの活動を有効適切にするためには、岐阜県文化課・岐阜県文化財保護協会その他の団体と密接な連絡をとり、最善の効果をあげたいと思います。どうか会員諸氏の絶大なるご協力ご支援によりまして、本会事業の益々充実発展を心から望んで止みません。一言、私見を述べて挨拶いたします。

## 新理事長就任に当って

文学博士・学芸員 吉田幸平

岐阜県博物館協会創立10周年を迎え、新理事長の就任の大役をお受けすることになり、覚悟を新にしています。想えば、昭和37年8月、水道山のユースホテルで、名和・郷両先生を中心として協会を組織してから早や10年になり、地味ではありますが歩み続けてまいりました。その間、財政貧困のため、大きな事業も出来ず残念でありますが、貧困であるだけに、例えば歯を喰いしばって、機関誌「岐阜の博物館」を第15号まで続けてきました。この機関誌は、全国主要図書館や大学及び、アメリカ国会図書

館までも配布してきており、斯界からは高く評価されてきています。これには、宮崎・小野木両学芸員の方々の手弁当取材という情熱があったればこそ出来たのであり、感謝しています。しかしながら、もっと内容を充実して行きたいので、皆様方からの原稿をお待ちしております。

また、文化財保護協会の副会長・常任理事・理事という要職にも、当協会員が就任して、人文分野では両輪の如く活躍することも出来ました。あるいは、協会員がテレビやラジオに、あるいは海外研究旅行に、また各学会に研究論文

を発表するなど、各種活躍してきましたが、昭和47年3月27日、副会長名和正男先生の急逝は全く惜しいことであります。

名和昆虫博物館長としての活躍は余りにも有名であり、民間人として、従五位勲四等瑞宝章が下賜されましたことでも、如何にレパトリーが広がったかが解ります。大黒柱を亡くした当協会は、理事長であった岐阜城館長 郷 浩先生を副会長にお願いして、新編成をみましたし、政治手腕のある藤田松太郎氏(円空顕彰会理事長・文化財保護協会常任理事)石川良宣氏(円満寺住職・文化財保護協会常任理事)松田充氏(東海社会教育評議会議長・文化財保護協会常任理事・ユネスコ文化財委員)名和秀雄氏(名和正男氏令息・名和昆虫博物館長)青木允夫氏(内藤記念くすり資料館長・医学博士)を新たに理事として迎え、会計には上村 修氏(美濃民俗と文化の会員・納税組合長15年)と事務局員に松本秀夫氏(日写連会員、円空顕彰会員)という編成を見て、新しく出発しようと

しています。特に、本年は岐阜県からの助成団体として、20万円の助成金を得まして、協会の財政も飛躍的に確立されましたので、今後は色々計画立案の上実施して、大衆と共にある博物館・生涯教育の場としての博物館という、協会として、他県の協会に比較して水をあげられてきたことを、何とかその差を縮めて進みたいと思っています。

特に、この際申し上げておきたいと思っておりますことは、博物館の経営者が、自分の殻に閉じこもって、新しい博物館の考え方や、進展について、余り交流を望まれない人がおられるのは、速慮気味のことと思われまますので、ドンドン色々な行事に参加下されまして、新しい博物館学の勉強をしていただきたいということです。そして、常に情報を得て欲しいと思っております。

横の情報交換と交流を盛んにし、県下の名館園が手をとり合い、一丸となって進展したいものです。(濃飛甲冑研究所長・日本博物館協会会員)

## 三 県内ニュース

### 郡上八幡に二美術館誕生

郡上八幡民芸美術館・松本五三氏経営。  
26.0㎡ 平屋建て。刀剣・武具・陶器・漆器  
仏像・書画等450点を展示。おとなは100円、  
こども50円。郡上八幡大鍾乳洞の近くに開館。  
連絡は今のところ、TEL<05756>5-  
2329 松本氏自宅へ。

### 原稿募集

この機関誌「岐阜県の博物館」は、新副会長、新理事長の挨拶の中でも述べられていますように、その第一の目的は、県内各館園の横の結びつきを密にし、情報を交換し、お互いに手を取りあって発展向上することにあります。

- ◎博物館行政に対するご意見
- ◎各館園での展示の工夫・アイデア
- ◎経営苦心談・資料収集の苦心談
- ◎各館園での事業活動のようす
- ◎随筆・随想文

その他、どんな内容でも結構ですから、どんな事務局までお寄せ下さい。特に〆切日無し。

貴異美術館 7月7日オープン、犬山市の高松電気製作所KKの会長高岡隆光氏が50年の歳月を費して収集したもの。182㎡ 平屋建て。油石洞入口高松園の近くに開館。目玉展示品は、川越城主松平大和守のよろいかぶと。中国の民芸品、渡辺華山の名画、加藤清正ゆかりの香木、慶長大判・小判等々貴異珍品類百点を展示。おとな200円、こども100円。

上記2館が、本当の意味の美術館として前進されることを心より願うものである。

編集後記 ◎国立科学博物館の鶴田総一郎先生からは、とても貴重な原稿「岐阜県博物館に懸ける夢」をいただきました。これが夢に終わることなく、岐阜県で実を結び、『未来に生きる博物館と百年公園』として実現してもらいたいものです。なお、先生のご意見は、単に岐阜県博物館にかかわるだけでなく、会員諸館園にとっても、貴重な教訓となる点が多く含まれています。十分参考にして下さい。◎とうとう東海大会を迎えました。会場で、各地でご活躍の会員諸氏とお目にかかれるのがとても楽しみです。(S a b.)